優しくてオシャレで晩酌も。粋な明治女の皆川ヨ子さん

八十歳を過ぎてからも息子・學さんのナシ園で農作業をし、一〇六歳まで自宅の掃除や庭の手入れなど、自分の身の回りのことをしていたという皆川ヨ子さん。しんの強い働き者です。趣味は三味線で、時折、自宅から奏でる音色が周囲に聞こえてきたといいます。晩酌を欠かさず、一日一合の冷酒をたしなみ、仏壇には毎日お酒をお供えしていました。テレビでは相撲や時代劇をよく見ていたそうで、きれい好きだったため、家の中は常に整理整頓されていました。平成二年に九十七歳で赤池町の最高齢者になり、敬老の日にちなんだ町長の表敬訪問の際には、薄化粧をして出迎えるなど、身だしなみにも気を配るオシャレさん。今でも自分でくしを使って髪型を整えています。初めて町一番の長寿として来賓に招かれた敬老会では「人前に出るのは、はずかしい」と、シャイな一面もみせました。

ヨ子さんは一〇七歳で施設に入った後、車いすでの生活を送っていますが、現在でも音楽レクリエーションや誕生会、大好きなお花見などのイベントに参加しています。一日三度の食事をしっかりとり、好き嫌いもなく、毎食スプーンを使って自ら口に運びます。また、夜八時には就寝し、昼寝も含めて一日に十四～十五時間の睡眠をとっています。週一回の診察と年二回の健診も欠かしません。

「ありがと、サンキュー」が口ぐせの皆川ヨ子さんは、前向きでおおらかなやさしい性格の持ち主。これまで、人の悪口も決して言いませんでした。手を合わせるしぐさは周囲にもおなじみで、こうやって日に何度も感謝の気持ちを表現します。今でも一個のまんじゅうを半分にして隣の人にあげたり、世話をする職員に「もうやめて早く休みなさい」と気を遣ったりします。

長寿世界一の背景にある福智山ふもとの豊かな風土

ヨ子さんの健康長寿は、ひと言で言える秘けつがあるわけではなく、食事・運動・睡眠など、長年にわたる規則正しい生活とストレスをためない心によって支えられてきたようです。福智山のふもとに広がる自然や生まれ育った上野の空気と水など、その背景には変わらない生活環境や町の風土があります。

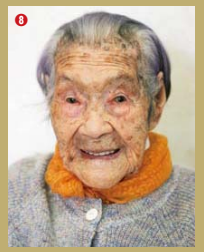
平成十七年四月五日に日本最高齢者となった皆川ヨ子さんが、ついに世界一の長寿になりました。町から日本、そして世界における健康長寿のシンボルとして、その笑顔でぜひ多くの人に夢と希望を与えてください。そして、ずっと心穏やかに、いつまでも長生きしていただきたいと願うばかりです。

英ギネスブックが世界最高齢と認めていた米国人女性エマ・ティルマンさんが一月二十八日、米コネティカット州で死去されました。皆川ヨ子さんと同じ一一四歳でした。ここに、慎んでご冥福をお祈りいたします。

思い出のアルバム

3つの世紀 4つの年号を 生きてきた年輪

左の写真は99歳の皆川ヨ子さん。敬老の日の表彰時、自宅での様子。❶中央の奥にチラリとみえる姿がヨ子さん、農作業中の貴重な写真。❷およそ70歳ごろのヨ子さん、自宅の庭で撮影。❸97歳のヨ子さん。赤池町内の最高齢者として初めての表彰を受ける。



❹平成16年の敬老会、園児たちの演技に笑顔がこぼれる。❺112歳で日本最高齢者に。17年4月5日、桜の下で会見。❻同年秋、慶寿園の音楽療法で「ありがと、サンキュ」❼17年10月、赤池町の名誉町民に。❽広報紙の表紙撮影で。❾114歳の誕生パーティー。

寄せられた声

立花 敏朗さん
慶寿園施設長

▶世界一の夢がこんなに早く実現するとは思いませんでした。これからもヨ子さんの生活を守り最大限サポートしてまいります。

香月 スマ子さん
慶寿園職員

▶夜勤時に連絡を受け、驚きました。よく食べよく眠るという規則正しい生活が、ヨ子さんの長寿の源のような気がします。

赤田　豊さん
慶寿園職員

▶ヨ子さんはだれに対しても明るいかた。たまに冗談を言い合ったりもします。まだ実感はわきませんが、うれしいです。

近藤 喜美子さん
慶寿園職員

▶年に数回、調子がいいときは季節のお花を見に行きます。夏の夕涼み会ではヨ子さん自ら缶ビールを飲む場面もありました。

森 いづみさん
慶寿園職員

▶お掃除中に「かわろうか」と気遣っていただいたり、夜勤の時もヨ子さんに励まされています。尊敬するすてきな女性です。

福元 ハツネさん
慶寿園

▶ヨ子さんはいつもニコニコ笑ってらっしゃる。とても優しいかたです。わたくしも一緒に過ごすことができて、光栄です。

高濱 ミツコさん
慶寿園

▶ヨ子さんと話すと元気をもらえるような気がします。あんな風に生きられたら幸せでしょう。自分の事のようにうれしいです。

前谷 シズエさん
慶寿園

▶飛び上がるほどうれしかった。ヨ子さんはやさしくて頭のいい人、わたしたちの誇りです。いつまでも長生きして欲しい。